2026年10月30日

各　　位

会　社　名　株式会社ＣＣＩグループ
代 表 者 名　代表取締役社長　杖村　修司
（コード番号　7381　東証プライム）
問 合 せ 先　常務執行役員経営企画部長　寺井　尚孝
（TEL　076-263-1111）

中期経営戦略のアップデートに関するお知らせ

株式会社ＣＣＩグループ（代表取締役社長：杖村 修司）では、急速な社会情勢・経営環境の変化を捉え、より柔軟かつスピーディーに戦略を実行するために、5年、10年先を見据えた中長期の経営戦略を策定し、毎年アップデートしていく方針としております。

今般、2026年4月に公表した「中期経営戦略2026」について、AIの急速な進展や金利上昇の加速など、計画策定時の重要な前提に変化が生じていることを踏まえ、年次更新を待たず、今般の中間決算のタイミングでアップデートし、下記のとおり「中期経営戦略2026Plus」として公表しましたのでお知らせします。

記

１．アップデートのポイント

顧客起点を原点とする経営思想と目指すグループ体制は維持しながら、環境変化への対応力を高め、価値提供と持続的な成長を両立するため、以下の3つの経営変革を推進します。

（１）AIネイティブ経営への転換

・AIを効率化の一施策ではなく、顧客接点、業務、意思決定、システム開発・運用、組織、人材を顧客起点で再設計する企業基盤と位置づける。

・人とAIの役割を明確にし、組織の知とAIを働かせる仕組みを整備するとともに、AIガバナンスを強化する。

（２）協創プラットフォームの構築

・他の金融機関、地域企業、自治体、大学、テクノロジー企業等の多様なパートナーと、知見・技術・人材・資本・データを持ち寄り、単独では実現できない新たな価値を創出する。

・金融機関向けサービス提供に加え、共同事業や資本協創を通じた事業展開を本格化する。

（３）統治OS（ガバナンス）の強化

・今後の事業展開を支える機能として、取締役会の機能、CEOサクセッション、グループガバナンス・利益相反管理、監査・第三者評価・当局対話の実効性をさらに高め、変革のスピードとリスク管理を両立する。

２．中期的に目指す水準

AI の進展、金利上昇、システム販売事業における事業機会の具体化および信用コストの安定化を反映し、中長期的に目指す水準をアップデートいたしました。今後は ROE8.0%以上を安定的に確保できる経営基盤の構築を進め、2032 年度以降は ROE10.0%以上を継続的に実現することを目指します。

（単位：億円）

項目	2026/3 実績	2026/3 達成率	2027/3 半年後	2028/3 1.5年後	2029/3 2.5年後	2030/3 3.5年後	2032年度以降
収益・コストへの影響要因と年度別の影響額 ご参考：BankWill 償却について 期間は2032/3期まで、償却額は40億円/年			①AI進展 ②金利上昇＊ ③システム販売計画精緻化 ④与信コスト安定化 ⑤BankWill償却期間5年に短縮				
			＋20	＋30	＋35	＋70	
経常利益 （連結）	198	110.0%	265	285	310	410	
当期純利益 （連結）	126	114.5%	190	190	200	270	
ＲＯＥ＊	5.9%	＋0.8pt	8.3%	8.0%	8.0%	10.0%	ROE 10.0%以上
ＯＨＲ＊	66%	ー	60%		55～60%		

※金利シナリオは、短期（政策金利）：1.50%（2027/3 期）～1.75%（2028/3 期以降）、長期（10 年国債）：3.00%（2027/3 期以降）

※ROE は、国内基準行ベースのバーゼルⅢコア資本に対する親会社株主に帰属する当期純利益額により算出

※OHR は、コア業務粗利益ベース

なお、「中期経営戦略 2026Plus」の詳細は、別途 IR 資料にて公表しております。

■Investor Presentation　https://www.ccig.co.jp/ir/ir_briefing/material/

以上

《本件に関するお問合せ先》
経営企画部 企画グループ　堀
（TEL076-223-9703）